

四国最南端のナシカズラ（高知県・足摺四万十）

― 多様性に富む自生樹の数々 ―

四国最南端の足摺岬から四万十川河口にかけての沿岸部には、地元ではナシカズラと呼ばれるシマサルナシ（*A. rufa*）の自生がみられます。

当時足摺岬の診療所におられた松原先生に無理をお願いして、岬周辺の自生樹を探索しました。地元の年配の方々に尋ねていただいたところ、子供の頃に実を採って食べたとか、どこそこにはまだ樹があるのでなどの情報が集まりました。海岸から駆け上がるような地形で、小さな沢が流れ込むような場所には、多くの自生樹がありました。中には、紫色の茎で果芯のまわりがわずかに赤い果実を着けるものもあり、形質の多様性が感じられました。

黒潮が洗うこの地域は年間を通じて比較的温暖で、足元にはたくさんのおツワブキが黄色い花を咲かせていました。

二〇〇二年十一月十五日

